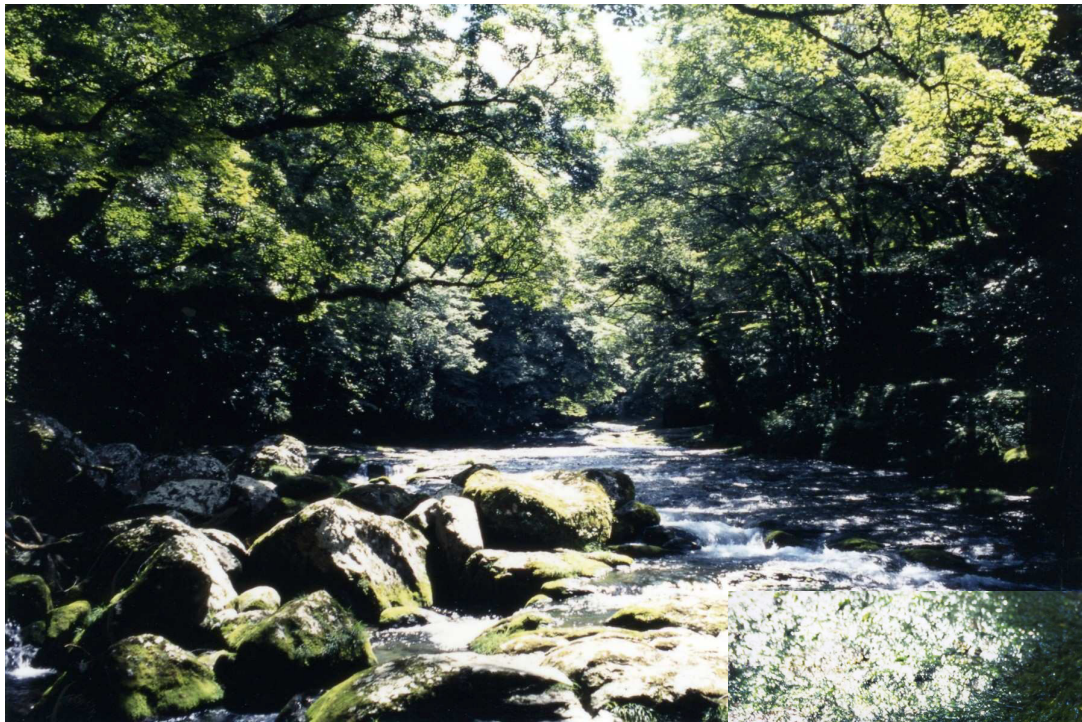


市指定文化財 <天然記念物>

きくちがわ
菊池川のり

・ 指定日 昭和41年4月15日

・ 所在地 菊池市原 菊池溪谷内



菊池川のりは溪流産の淡水藻類である。かつては同様の淡水産藻類であるスイゼンジノリ（藍藻類）と混同され、カワタケノリやスイゼンジノリの名で呼ばれることもあったが、現在では分類学上、全く異なる種（緑藻類）として区別されている。

川のりは栃木県以南の太平洋に注ぐ大河川上流部の溪流に分布し、古くから食用として採取されてきた。幅0.5～4cm、長さ10～20cmの単細胞からなる葉状体で、扁平で薄い葉状体の基部は溪流中の岩石面に付着しており、海産のアオサに似ている。年中生育しているが、7～11月が最も多い。

江戸時代には細川藩から幕府への献上物になっていたが、現在は生育環境が破壊されてきたためその分布が激減し、環境省の絶滅危惧調査対象種となっている。県内でも菊池溪谷をはじめ、球磨郡山江村、八代市泉、阿蘇郡小国町の溪流で見られていたが殆ど絶滅し、現在ではごく限られた場所でしか見られなくなった。